

# いきいき 行田人

## 「税についての作文」で

### 国税庁長官賞を受賞

岩崎 里衣さん（15歳・谷郷）

国税庁と全国納税貯蓄組合連合会が、全国の中学生を対象に募集を行った「税についての作文」。今月は、全国56万1千537編の応募作品の中から、栄えある賞である国税庁長官賞を受賞した岩崎里衣さんを紹介します。

岩崎さんが「税についての作文」に応募したのは今回で2回目。前は、行田市の中学生海外派遣研修に参加した体験をテーマに作文を書き、埼玉県納税貯蓄組合連合会優秀賞を受賞しました。今回は、夏休みの社会科の課題で税の作文を書くことになったのですが、夏休みの最終日までテーマが思い浮かばず、悪戦苦闘していたそうです。そんな中、ふと岩崎さんの頭をよぎったのは、4歳年上の姉が生まれた時に、命を救ってくれた埼玉県立小児医療センターのことでした。以前から、同センターが税金で運営されていることを知っていたこともあって、岩崎さんは「埼



玉県立小児医療センターによって、姉が命を救われたことをテーマに作文を書こう」と決めました。

作文を書き始める前に、何度も何度も当時のことを家族に聞いた岩崎さん。「幼いころから、耳にたこができるくらい姉の話聞いていましたが、具体的に聞いたのは初めて。壮絶な状況に驚きました」と振り返ります。そして、家族への取材を基に出来上がった作文、「守れ、小児医療センター」が国税庁長官賞を受賞したのです。母が早期胎盤剥離で、母子共に危険な状態であったこと、超未熟児で生まれた姉の命を救うため、設備が整った同センターへ移るまでの間に、何度も姉の命が窮地に立たされたこと、姉が未熟児専用のドクターカーで搬送され、その後入院を繰り返しながらも、現在は元氣な姿でいることなど、リアルティ溢れるように書くことを心掛けた岩崎さん。「救えるはずの命があるのなら、そのために税金を使うことは生きた税金の使い方の一つ」と正直に税への思いもつづりました。

「作文を書いたことで、税金は私たちの生活に欠かすことのできないものだと感じました」と税について、さらに理解を深めることができた岩崎さんは、現在受験生。元氣に大学の薬学部に通う姉のように「将来は、医療関係の仕事に携わりたい」と夢を語り、一歩ずつ未来への階段を上り始めているように見えました。

## 私の作品

### 俳句

忍 岡田 修

好晴の秋惜しむかに土手の山羊

長野 内山 計江

落葉して実の細りたる狭庭かな

佐間 藤田 久仁

天高しはあと呼ばれてうれしかり

須加 須加かつ江

神の留守 狛犬達も大欠伸

須加 蓮 陽子

銀杏の黄あざやかなりし日に映えて

壱里山町 斉藤 閑風

ふんぎりのつかぬ引き時蜂の冬

長野 篠崎 礼子

猫を連れ落ち葉踏みしめ歩く道

佐間 矢澤喜美江

榛名山友と旅する紅葉路

城南 町田ツギ子

立冬もすぎし小雨やもの悲し

矢場 鈴木かつの

部屋の名のどれも山の名秋の宿

裏表街路を染める落葉舞う

城西 山下 利江

冬寒や葉袋の一つふえ

佐間 須永 節子

池の端歩けば鴨も寄り来たる

天満 青柳 欣吾

なにはさて病みし夫へと栗御飯

城南 橋本千枝子

小春日や赤子の寝息腕の中

清水町 柳沢 紀子

(木島 斗川 監修)



『朝の光』（パッチワーク）  
米川 晴子（長野）

◎皆さんの作品を募集しています。  
◎俳句は毎月5日まではがき・封書で広報広聴課へご応募ください。

